

会議記録

委員会の名称	第2～5回 熊谷市事務事業評価外部評価委員会
開催日時	平成23年8月8日(月)、9日(火) 午前9時30分から午後3時10分まで(8日) 午前9時50分から午後3時20分まで(9日)
開催場所	熊谷市役所603会議室
出席者	副市長 委員 8名 事務局 4名
傍聴人	35名(2日間の延べ人数)
問い合わせ先 (所管課)	総合政策部行政改革推進室(市役所本庁舎3階) TEL 048-524-1111(内線216)
内容	<p>1 概要</p> <p>1日目は開会式の後、8名の委員が4名ずつA・Bの2班に別れ、各班がそれぞれ6事務事業を分担し、合計で12事務事業の評価作業を実施した。</p> <p>2日目も、1日目と同様に12事務事業の評価作業を実施した後、閉会式を実施し、2日間で合計24事務事業の評価作業が終了した。</p> <p>2 各事業の評価結果と主な委員意見</p> <p>(1)【8月8日(月) 第1日目】</p> <p>ア 事業番号〔A-1〕 事務事業名〔高校女子サッカー大会(めぬまカップ)事業〕 評価結果〔 継続 〕</p> <p>〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国高等学校体育連盟で新たな組織が設立されるなど、事業を取り巻く環境が変わってきている。 ○熊谷市として、PRにつなげられれば良い。 ○現存する施設の有効活用の必要性を感じた。 ○他の地域との交流も貴重な機会である。 ○なでしこジャパンの優勝の効果にみるように、スポーツは人間の活性化を促す効果があると思う。 ○大きな理想を持って全国レベルの大会を目指して事業を進め、地域にプラスとなるよう活性化につなげてほしい。 <p>イ 事業番号〔A-2〕 事務事業名〔熊谷市民公益活動促進事業はじめの一步助成金〕 評価結果〔 継続 〕</p>

会議記録

内容	<p>〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○補助団体の活動に対して、事業終了後もフォローアップすることが大切である。○広い年齢層の市民に理解してもらうためには、ホームページ中心でなく、市報を中心としてホームページを活用しながら広報する方法が良い。また、広く補助団体の活動をオープンにすることが、適切な税金の使い方にもつながる。○補助団体が収支バランスをとりながらきちんと公益活動を継続するノウハウとしては、組織体マネジメントやマーケティングといった観点が重要である。団体育成のためには、金銭的な支援だけでなく、市として専門的アドバイス等の支援の必要性を感じる。○団体への補助が途切れないよう、スタート助成金とチャレンジ助成金を継続して補助するほうが、団体の活動も継続し易くなり、団体を育成することにつながるのではないか。 <p>ウ 事業番号〔A-3〕 事務事業名〔防犯拠点事業〕 評価結果〔 継続 〕</p> <p>〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○警察的機能の防犯拠点と図書館機能を併せ持った複合的施設は目的が不明確であり、効果が薄れてしまうのではないか。また、既に熊谷駅南口に図書館があり機能が重複する。○図書館を設置した目的は、図書館としての機能よりも、風俗店の出店を規制することを重視するならば設置する意義がある。○風営法や県条例による風俗店出店の規制について、複合的施設にしなくても規制できるよう国等へ働きかけをしてほしい。○防犯カメラは、事件の証拠作成とともに、犯罪の抑止効果も期待できる。○大切な安全の取組みであるが、財源に課題がある以上、開館時間を午前中からでなくもっと遅らせるなど工夫も必要である。 <p>エ 事業番号〔A-4〕 事務事業名〔生活支援ハウス運営事業〕 評価結果〔中止・廃止の検討を要する〕</p> <p>〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○介護保険法が制定され10年が経過し、様々な福祉の提供が実施されてきている現在、これまでの制度との機能重複など複雑化しており、整理する必要がある。介護保険制度への移行で機能を代替できないか。○仮に、入居者が別の施設へ移ることとなった場合、福祉のプロである担当課が、入居者あるいは家族にとってベターな施設を紹介することで、入居者の現在の生活が激変してしまうことを緩和できるのではないか。
----	--

会議記録

内容	<p>○この制度の歴史的使命は達成していると感じる。</p> <p>○新規の受入れを募集しないなかで、現在の入居者の生活を第一に考え、入居の相談に対応し代替施設を紹介するなどいくつかのアプローチが考えられる。</p> <p>○現在の介護施設の充実が図られている現状からすると生活支援ハウスの役割は終了した。</p> <p>オ 事業番号〔A-5〕 事務事業名〔少年補導センター運営経費〕 評価結果〔 継続 〕 〈主な委員意見〉</p> <p>○補導員が1年で交代してしまうことや負担に感じていることなどの課題はあるが、青少年の健全育成を図るため解決策を見つけて事業を継続すべき。</p> <p>○街頭補導活動の時間帯が昼間とあまり変わらない5時半であるにもかかわらず、補導員が負担に感じていることを併せて考える必要がある。</p> <p>○防犯活動と少年補導活動が目指すところは、犯罪がなく少年が非行に走らない社会づくりであり共通していることから、情報交換や活動の整合を図るなど連携してもよい。</p> <p>○帰宅誘導としての現在の活動には意味があるが、少年補導を効果的に実施するためには、夜間の時間帯に実施することも検討してほしい。</p> <p>○PTA等を通じ、補導員に対し社会貢献活動としての意義を積極的に啓蒙を図り、補導員の認識を変えて負担感を感じないよう取り組んでほしい。</p> <p>カ 事業番号〔A-6〕 事務事業名〔自治会配布用薬剤購入について〕 評価結果〔改善(有料化の検討・安全の確保)〕 〈主な委員意見〉</p> <p>○薬剤を要望している自治会の割合が低いにもかかわらず、一律に全額補助するのは、補助を受けない自治会との公平の観点から、適切な補助といえるか疑問。</p> <p>○必要とする自治会に応分の費用負担を求めることにより、無駄使いしたり無駄に捨ててしまうことが無くなるのではないか。</p> <p>○劇薬であることから安全面に配慮し、自治会に配布した残余薬剤の管理を徹底させるため、配布した自治会から作業活動報告を市へ提出してもらってはどうか。</p> <p>○事業が開始された昭和40年代のニーズと現在のニーズは違ってきており、一部有料化を検討してはどうか。</p> <p>キ 事業番号〔B-1〕 事務事業名〔あっぱれ・天晴・新エネ・省エネ機器普及推進事業〕</p>
----	---

会議記録

内容	<p>評価結果〔 継続 〕</p> <p>〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○限られた予算の制約のなかでは、新築時に限定される高効率給湯器よりも、既築時にも設置が可能な太陽光発電に対する補助に統一したほうがよい。○今後は一般家庭における太陽光発電の普及を見据え、高効率給湯器の補助対象機種を限定し制限し、太陽光発電の普及に重点を置くほうがよい。○キャラクターの「あつべえ」は人気がないので、リニューアルして、太陽光発電の補助に対する新しいPRを工夫してほしい。○「快晴日数日本一」の特色を生かし、「あっぱれ熊谷」の一環として太陽光発電の補助に力を入れているイメージ作りが大切である。
	<p>ク 事業番号〔B-2〕</p> <p>事務事業名〔農地・水・環境保全向上対策支援事業〕</p> <p>評価結果〔 継続 〕</p> <p>〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○今後、国補助が廃止になる中で市補助を継続するにあたり、コミュニティ活動は素晴らしいことなので、補助団体ごとの活動状況を把握し、補助金額がこのままでよいのか、現在の35団体より増やすのか、減らすのか検討が必要である。○江南のホテルの会のように、他の団体等から協力金を募るやり方もある。○本当に団体の活動を継続させるためには、お金ではないものが必要である。○補助金の予算が無くなることも踏まえ、今後、無償ボランティアを考えるべきである。○外部資金の導入、団体の取捨選択及び一律の補助金などについて検討を要する。○農業地域のコミュニティを維持するためにも事業を継続する必要がある。
	<p>ケ 事業番号〔B-3〕</p> <p>事務事業名〔安心安全道路ネットワーク整備事業〕</p> <p>評価結果〔 継続 〕</p> <p>〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○安全安心な道路整備事業自体は継続してほしいが、安心安全の検証については、安心安全課や子育てネットなど、また各学校でも安全道路マップを作成するなど他のセクションで行っており、道路のハード整備以外の安全安心の視点を活用すべきである。○道路改良事業があるなか、別事業として予算化する必要があるか。○整備路線の決定について疑問を感じる。○用地買収や道路整備など、市債を発行してまで実施する事業であり、費用対効果を検証し、長期的視点に立って他の課と連携を図り実施してほしい。○カラーリングなど道路整備以外の代替手段の方法を活用するほうが安心安

会議記録

内容	<p>全の目的をより達成しやすい。</p> <p>コ 事業番号〔B-4〕 事務事業名〔消防活動経費（消防団）〕 評価結果〔 拡大 〕 〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○東日本大震災からわかるように、自助については支援が必要であり、安心安全の確保のため予算の拡充をしてほしい。○火事や震災に対応できるように、更新する防火衣や装備の充実を図る必要性がある。○東日本大震災の事例からも消防団の必要性は理解できる。○若い世代を対象に団員を募集するために、ネットの活用や市内の若者の組織で一番大きな祭り祇園会などを通じて募集してはどうか。 <p>サ 事業番号〔B-5〕 事務事業名〔体験学習推進事業〕 評価結果〔 継続 〕 〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○子供の教育にはお金を惜しんでほしくない。費用対効果では測れない。○自然体験学習に地元の自然を知る体験を取り入れることも重要である。○海浜学校は、熊谷の地域に留まらない発想を育むことに大変効果的と感じる一方、バス代については、受益者負担を検討する必要もある。○キャリア教育の結果の検証について、各校で実施しているアンケートの統一を図るなど工夫する必要がある。 <p>シ 事業番号〔B-6〕 事務事業名〔文化振興助成事業〕 評価結果〔改善(基金の効果的な活用)〕 〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○文化的事業に対する市の補助金額の総額が50万円は少ないと感じる。○他団体の補助と重複して補助を受けられない場合が多く、補助金額10万円の市の補助金より、補助金額が高い他団体の補助に流れてしまっているため、申請件数が少ないのではないか。○この補助事業は、記念事業などに対象が限定されていて補助申請しづらく、手続きなどの手間を考えるともっと金額が高ければ申請は増えると思う。○公募申請件数が満たない中でこのまま継続していくのはどうか。○文化事業の総額が多い事業も、少ない事業もあるため、上限を10万円に限定するのではなく、事業の優先順位を付けて、事業の中身を精査し金額を決定するなど、補助対象を入り口で絞ってしまうのではなく、窓口を広げる工夫も必要と感じる。
----	---

会議記録

内容	<p>○文化振興基金の活用の仕方として、わずかな補助金を出すだけでなく、各団体に自ら競って活動してもらい、その中で文化振興に貢献した団体を表彰し、賞金を出すなど代替となる活用の仕方を検討してはどうか。</p> <p>○一度事業はやめて元に戻したらどうか。</p> <p>○年々活発になっている市民の文化活動に対応するため、市民ニーズの把握に努めて大幅な改善を要する。</p> <p>(2)【8月9日(火) 第2日目】</p> <p>ス 事業番号〔A-7〕 事務事業名〔にぎわい再生事業〕 評価結果〔改善(イベント内容の精査)〕</p> <p>〈主な委員意見〉</p> <p>○空き店舗を利用した街おこしの取組みは様々な場所で行われているが、現在の市の取組みは、にぎわいを市街地に取り戻す取組みとしては貧弱に感じる。もっと人を集める工夫が必要ではないか。</p> <p>○利用者アンケートなどの基礎的データの把握や全国の事例研究に努め活かしてほしい。</p> <p>○にぎわいを目的としながら、土日に開いていないのはどうか。活動内容が公益の公民館活動的な印象を受ける。本来、利用者が他の店舗利用につながり、にぎわいに結びつくことがねらいと思うが、現在の利用者は固定化し、目的からずれた取組みとなっている。</p> <p>○お金をかけずにアイデアコンテストなどを開催するなど企画提案を募集するなどの取組みをしてはどうか。</p> <p>○楽しい企画でお客を呼ぶような取組み内容に改善が必要である。</p> <p>○家賃支出が16万円/月もあり、事業との費用対効果の観点から再検討が必要である。</p> <p>セ 事業番号〔A-8〕 事務事業名〔シルバー人材センター推進事業〕 評価結果〔継続〕</p> <p>〈主な委員意見〉</p> <p>○高齢者が会社を辞めて突然仕事を失うと健康を損なうこともあると感じており、長寿いきがい課と連携を図るなど、また他市との意見交換も行い、本来の目的の達成に努めてほしい。</p> <p>○請け負う仕事の質を確保するためにも人材の研修は必要である。</p> <p>○シルバー人材センターの経営改善のモニタリングは継続して行ってほしい。</p> <p>ソ 事業番号〔A-9〕 事務事業名〔「緊急雇用対策」熊谷駅観光案内業務実施事業〕</p>
----	---

会議記録

内容	<p>評価結果〔改善(観光振興対策を目的とした実施方法の工夫)〕</p> <p>〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○今後、補助金などの財源がなくなると考えると、観光地などで事例があるように、その街を愛してその街のことに精通しているボランティアガイドを募って案内を行ってはどうか。○同じ場所で市民課の仕事をしている人が、平日の観光案内業務も兼ねて行うことで、コストの削減につながる。また、これは職域の拡大や視野が拡大し仕事がマンネリ化しないためにも効果的である。○熊谷は聖天山もあり大きな街であるので、改札を出た駅構内の目に付く場所で観光案内の場所が分かるようにしてはどうか。○この事業は、緊急雇用対策の一環として実施するのではなく、恒常的に実施する観光案内の目的に限定して実施するほうがすっきりする。 <p>タ 事業番号〔A-10〕</p> <p>事務事業名〔排水設備改造資金の融資あっせん〕</p> <p>評価結果〔中止・廃止の検討を要する〕</p> <p>〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○現実的に利用者がいないことを理由として、この制度を打ち切っても説明がつく。○努力義務により制度廃止することができなければ、継続するしかないが、利子補助の効果・実績からすると制度の役目は終わったと感じるので、他事業との統合などを検討できないか。○実害がないとの理由からこのまま継続することには違和感を感じる。○水洗化率の向上の努力を止めてよいということではなく、この制度が水洗化率の向上に結びつくものでなければ、この事業の必要性を再検討すべきである。
	<p>チ 事業番号〔A-11〕</p> <p>事務事業名〔育英資金貸付事業〕</p> <p>評価結果〔 継続 〕</p> <p>〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○貸すのも仕事だが、回収も大切な仕事であるので、貸与者の滞納整理については、直接個別訪問し、二人目の保証人へも催告すべきである。○悪質な場合は債権回収業者への委託も検討の余地はある。○国等の奨学金制度を充実させれば足りることで、市が制度を設置する妥当性に疑問を感じる。○貸与者への卒業後の進路調査など、実態把握に努めフォローアップを行う必要がある。○機関保証人制度を活用すれば、借りる人にとっても市にとっても両方が助かる。

会議記録

内容	<p>○地元の勤勉意欲がある人材を育成する観点や、市民に一番身近な市が緊急的に実施する意味で市が奨学金制度を設置する意義はあると感じる。</p> <p>○経済状況が急変した家庭への救済策が必要と感じる。</p> <p>○徴税部門等との連携により、滞納者の中でも本当に困窮している世帯と余裕のある世帯との見極めを正確に行い、世帯に応じてきめ細かに対応することが滞納額を減らすことにつながる。</p> <p>ツ 事業番号〔A-12〕 事務事業名〔芸術文化育成事業(熊谷市文化振興財団に対する補助金)〕 評価結果〔 継続 〕 〈主な委員意見〉</p> <p>○財団の目的が文化活動の推進であることから、繰越金を多額に残すことより入場料の軽減に還元し入場者数の増加に寄与してはどうか。</p> <p>○財団の事業は収支バランスをとることも重要であるが、一般の市民満足度を高めることが一番大切である。利用者アンケートだけでなく、インターネット等を活用し、一般的な市民ニーズを汲み上げ反映させて、コンテンツの充実を図っていくほうがよい。</p> <p>○コストの縮減に努め、引き続き補助金額を精査するとともに、財団の自主的な事業活動を拡大し、市民が楽しめるイベントを開催していただくよう指導してほしい。</p> <p>テ 事業番号〔B-7〕 事務事業名〔同和対策事業振興補助事業〕 評価結果〔改善(補助金の削減)〕 〈主な委員意見〉</p> <p>○「同和行政基本方針」で、人権行政の重要な課題として、同和行政を明確に位置づけるということと特別措置法が失効されたとしても同和問題解決の放棄を意味するものではないと明確に書かれていることから、「振興補助金事業」は継続しなければその論旨に矛盾する。</p> <p>○財政が非常に逼迫しており、この事業に限らずいろいろな補助金の事業が見直されている状況や、国や各市町村の動向、社会的な動き等を見極めて、補助金の削減の検討がなされなければいけない。</p> <p>○中長期的な展望を含めて総合的な対策を実施する中でどのように運営に対する補助として、この補助金を続けられるかについては、全体像の中で見ていくことが重要である。</p> <p>○予算の制約があるなかで、社会的な情勢その他も考慮し、各市の補助金を削減する方向の中で、運営費であるため団体と削減の方向で協議を行っていただきたい。</p> <p>○運営費に占める補助金の割合が非常に高いため、急激な打ち切りは現実には難しいと思う。その点も十分考慮して事業を行っていただきたい。</p>
----	---

会議記録

内容	<p>ト 事業番号〔B-8〕 事務事業名〔国際理解促進事業〕 評価結果〔 継続 〕 〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○国際交流協会の事業(中高生ホームステイツアー)に参加するボランティアの方の負担が大きい。善意のボランティアの負担軽減につながるよう、市と協会の役割分担を見直してほしい。○事業費に占める広報紙発行の費用の割合が高いのではないか。○事業内容の精査も含め市と協会の役割分担を見直し、必要最小限に事務局の職員も精査する必要がある。○協会が設立されてから20年が経過しており、協会の硬直化を見直す必要がある。○国際交流関連の団体の一元化を図ることでネットワーク強化につなげられ、また、外部との交流を広げ活動が充実することを期待する。
	<p>ナ 事業番号〔B-9〕 事務事業名〔大里・妻沼・江南保健センター管理運営経費〕 評価結果〔中止・廃止の検討を要する〕 〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○保健センターへの1日の来所人数からすると、施設の存続意義に妥当性があるか疑問。○子育て広場、高齢者らくらく体操など貸館としての利用については、現存の公民館の活用状況から実施場所が適切か検討を要する。○年間コスト総額を貸館としての事業を除いた一日当たりの来所人数で割ると、一人当たり1万5820円のコストがかかっており、医者に行くより高額であり税金の効率的な使い方に疑問を感じる。○保健センターが市民の健康増進を図る施設として積極的な施策の展開を図る必要がある。○保健師の配置転換なども含め、民間の考え方を踏まえて施設の他所管への移管を検討するか、ビジネスプランを作り直した上で、抜本的な施設の中止・廃止を含めた検討を要する。
	<p>ニ 事業番号〔B-10〕 事務事業名〔社会福祉協議会補助事業〕 評価結果〔 継続 〕 〈主な委員意見〉</p> <ul style="list-style-type: none">○一般社会人の感覚からすると、年間売上(支出)額5億6千万円の規模において、約4億2千万円もの基金等(※基金等とは、社会福祉協議会の基金額は約1億5,800万円であるが、基金と性質を異にする自主事業での介護保

会議記録

内容	<p>険安定化積立金約1億9,500万円及び新年度事業の継続等に要する期末支払資金残約7,000万円を含む。)を持つ企業はまずありえない。一年間収入がなくても、やっていける程余裕のある団体と言え、市からの補助金額を精査する必要がある。</p> <p>○協議会の使命はすばらしいが、事業によっては事業収支を採っているものもあり、それらの事業を民間に振り分けるなど、全体事業の中身の検討をしてほしい。</p> <p>○事業の見直しとともに、適切な人員配置の再検討も必要ではないか。</p> <p>ヌ 事業番号〔B-11〕 事務事業名〔地域子育て支援拠点事業〕 評価結果〔 継続 〕 〈主な委員意見〉</p> <p>○施設の充実が図られた後で、将来的に全額を市で実施することとなった場合の市の負担を心配する。</p> <p>○「子育てするなら熊谷市」に見合う施策展開を、保健センターの活用も含め、庁内の各セクションが連携を図り積極的に図るべきである。</p> <p>○支援拠点に來れない母親の状況も踏まえ、アンケート調査などの手段において市民ニーズを汲み上げ、来年度以降の事業展開に反映してほしい。</p> <p>○支援拠点によっては活性化していない場所もあるが、ニーズは必ず存在することから工夫してニーズを汲み上げて活かしてほしい。</p> <p>○「子育てネットくまがや」は柔軟な役割を果たすことができるため支援拠点や「くまっしえ」と連携を密にすることも重要となる。</p> <p>ネ 事業番号〔B-12〕 事務事業〔保育所管理運営経費〕 評価結果〔 継続 〕 〈主な委員意見〉</p> <p>○保育に関して市がこれほど負担することで、保護者費用の負担軽減を図っていることは知らなかった。</p> <p>○子育て世代の払う税金より、保育に係る費用のほうが多くかかっている。</p> <p>○保育所保護者負担金基準額月額表において、ある程度の所得が高い世帯については、国の基準と同額に月額を引き上げても良いのではないか。</p> <p>○長期的な展望のもと継続していただくためにも、予算配分が重要となることから、保育所保護者負担金基準額月額表については累進にするなどで市負担が軽減されるよう見直しをしてほしい。</p>
----	---